慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	昭和十六年春季三田史學會研究旅行
Sub Title	
Author	笠尾, 國彦(Kasao, Kunihiko)
Publisher	三田史学会
Publication year	1942
Jtitle	史学 Vol.20, No.4 (1942. 6) ,p.153(639)- 155(641)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19420600-0153

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

夏先生穗鄉傳略　夏循垣
新元史蒙兀兒史記愛薛傳訂誤　翁獨健

他に燕京學報（季刊）がある。關係教員の近業には

齊思和　Contemporary Western History 1940
　燕吳非周封國說（燕京學報廿八期）
　牛耕之起源（經濟學研究季刊第一卷第一期）
洪煨蓮　Chinese Inkslab in Chinese Literary Tradition, Harvard-Yen-ching Institute Occasional Papers No. 3, 1940
鄧之誠　舊聞零拾　二册
聶崇岐　宋代府軍監之分析（燕京學報廿九期）
翁獨健　元代幹脫制度考（燕京學報廿九期）
王聿修　A Supplementary Reading List for History Majors 1941
侯仁之　故都勝蹟輯略
　續天下郡國利病書山東之部
張瑋瑛　聖法蘭西斯小花集選譯（基督教史料譯叢）

他に哈佛燕京學社出版に係る

西園聞見錄　明張萱著民國廿九年八月
商周彝器通考　容庚（燕京學報專號之十一）卅年三月

等がある。尚引得編纂處前記五十種以後最近の業績は正刊37周禮、38爾雅注疏、39全漢三國晉南北朝詩作著、特刊15六藝之一錄、16論語、17孟子、18爾雅、19清朝進士題名碑等であり、編纂中のものに史記、墨子、後漢書があつた。（杉本　忠）

昭和十六年春季　三田史學會研究旅行

昭和十六年六月八日（日）　天氣　快晴

參加者占部先生、伊木先生（指導）、間崎先生及び學生七名都合十名

午前六時半線國驛集合

午前六時五十五分兩國驛發、同十時十一分佐原着

驛前よりバスに乘り約十五分の後十時三十分頃香取神宮に到着

香取神宮見學

香取神宮沿革、祭神は經津主神である。鹿島神宮の祭神武甕槌神と共に國土開拓の鴻業をつとめられ、此の地方を平定された。

御鎭座以後朝廷の崇敬厚く神護景雲六年大和の春日神社に御分靈が迎へられ、爾後春日神社と共に藤原氏により氏神として尊崇されることになつた。社殿の造替は十年或は二十一年毎である。從來の社殿は元祿十三年德川綱吉の造營によるもので、其構造は權現造である。皇紀二千六百年を機とし、昭和十一年より修築の事業起り、今日見る所のものは昨年十月完成したもので彩色美麗である。

先づ昇殿して拜禮を終り社務所で古文書等を拜見する。

廳宣、鎌倉時代將軍御教書、足利尊氏寄進狀、造營の記錄等貴重なる史料を含む古文書五卷を始め、香取文書集、大祭繪卷上下二卷、香取年中行事一帖其他の拜見を畢り、大饗祭繪卷に因

んで出された串團子を御馳走になる。

社務所より出て神庫を見學、

大宮司家文書、慶長十三年正月司狀一卷、孝明天皇綸旨（邊海防禦の御祈願）、龜山天皇勅額一面（「正一位勳一等香取大明神」の題字あり）、海獸葡萄鏡（國寶）、古面、鐵楯二枚、大饗祭用菰製飯籠、櫛（鎌倉時代のもの）、伊達政宗奉納鴛鴦の椀一個等あり。寶庫は近々新造する筈とのこと。

御神庫を出て眺望臺に行き、前方右寄りに鹿島、正面に潮來を望む。それより引返して神宮を辭し、徒歩で佐原町伊能忠敬の家へ向ふ。

伊能家訪問

當主は伊能康之助氏といはれる。御隱居さんに說明して戴く。

本州の地圖（二十二萬分の一　中の部、八枚合せ）、忠敬の日記（沿海日記、測量日記）、對數表一册、嚴島の地圖（六十歲の時作る）、琵琶湖の地圖（六十一歲の時作る）、伊豆の邊海の圖、天橋立の地圖

自筆の座右銘（懸軸）

第一　假にも僞をせず孝弟忠信にして正直なるべし

第二　身の上の人は勿論身下の人にても敎訓意見あらば急度相用堅く守るべし

第三　篤敬謙讓にして言語進退寬裕に諸事謙り敬み少も人と爭論など成すべからず

亥九月廿一日

半圓方位盤一個、量程車一臺、彎窠羅鍼（磁石）一個、折裏尺等あり、

猶當家で辨當を食べ零時半頃辭去す。

一時頃佐原驛前より鹿島行バスに乘り、滿員の苦しみを嘗めると約一時間、潮來の町を過ぎ、十餘町の長橋を渡りて二時十五分に鹿島着。

鹿島神宮參拜

鹿島神宮沿革、祭神は武甕槌神である。天孫皇臨の際經津主神と共に大功を立て諏訪、關東に進出され、此の地に遷せられた。御鎭座以後朝廷の尊崇厚く、卽位、立后、立太子、任大臣等國家の大事には必ず奉告祭があり、又伊勢大廟と同じく、二十年毎の遣營である。

文武天皇和銅二年御分靈を大和春日神社に迎へまつり、當社も藤原氏の氏神となつたが、二十年毎の遣營は室町の中頃より時折しか行はれず、元和五年に至り德川秀忠が遣營して今日に至つたが、昭和十年來修復の議起り、本殿は竣工した。

神主氏の案內により境內を見物す。先づ昇殿拜禮の後、大同年間のもので根の廻りが四十二尺といふ本殿の裏の御神木の杉を見て、次に奧宮に向ふ。路々神主氏の話を聞く。神宮の境內は約百町歩、植物は六百種とのこと。

奧宮（國寶）　慶長十年遣營の社殿が奧宮として殘されてあるのである。建築は流れ造り、武甕槌神の荒魂を祭る。

御手洗川、本殿の東三町の所に在る。淸水夏冬常に湧出、中に

鯉を飼ふ。三貫目もあるものが一匹居た。往時は此の邊迄舟で漕ぎつけたとのことである。されば今の參道は昔の側面であつたであらう。香取神宮でも同じ樣なことが考へられる。

要石、本殿の東南三町の所にある。古來神聖な石とされ、俗說によれば根が金輪際に續くと。

本殿へ引返す。途中東雄櫻の碑を傍に見た。社務所の傍に玉座を納めた小舍があつた。昭和四年大演習の際行幸遊ばされた時のものとのこと。社務所で古文書拜觀す、當社の古文書は今全十八卷に新裝せられてある。

秀吉の禁制、佐竹氏の文書、政所解文、古河公方文書、勸進帳、傳馬の仕立を命ずる廻狀、石田三成の書狀、鹿島大神宮諸神官補任之記(享祿二年三月二十七日大宮司則久)、寄進狀、鹿島神宮天葉若木の事、鹿島大神宮領田數註文、足利尊氏の下知狀、細川頼之の書狀等

貴重なる史料が澤山に收められてあり、また修善寺紙、壇紙等の實物研究上得る所のものが多かつた。猶雪村筆百馬圖一帖(室町時代の作)在つた。

午後三時五十分鹿島神宮出發、ハイヤー二臺を傭ふ。同四時二十分大船津より遊覽船に乘つて夕暮に向ひつゝある北浦湖上を滑る樣に進む。

午後六時二十分佐原着、驛前で夕食を濟し、同九時四十一分兩國着。解散す。(笠尾國彥記)

三田史學研究會例會報告

昭和十六年

四月三十日(水)午後三時　於萬來舍　新入生歡迎會(第三百十二回例會)

ランケの「政治問答」に就いて　神山　四郎君

騎衍の世界觀と印度思想　橋本　增吉氏

五月十三日(火)午後三時　於萬來舍(第三百十三回例會)

江戸時代の浴場風俗　椎野　英司君

北條氏執權時代の概要　柳澤　最昭君

社會學の歷史的性格に就いて　米山　桂三氏

五月二十九日(木)午後三時　於萬來舍(第三百十四回例會)

鎌倉幕府の對公家政策　川畑　保彥君

明史日本傳よりみたる日明關係　小島　一仁君

天正使節に關する一記念碑銘　吉浦　盛純氏

六月二十四日(火)午後三時　於萬來舍(第三百十五回例會)

上代屯倉に就いて　笠尾　國彥君

支那繪畫史上に於ける牧溪の位置に就いて　北野　政義君

契丹民族の興起と畫像石の古墳　八木奬三郎氏

九月三十日(火)午後三時　於萬來舍(第三百十六回例會)

近世初期に於ける樂市樂座政策の一考容——

近江を中心として　菊地　正世君

支那に於けるネストル教及びその碑　加藤　忠彥君